

2017 年度 秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2014年度前期から授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更し、2016年度より、2011年に開設されたグローバル30人間科学コース（以下G30）でのアンケートも開始した。さらに今年度からは、講義科目以外の演習、実習、研究についてもKOAN上でのアンケートを開始した。実施期間は以下の通りである。

2017年度秋冬学期アンケート回答期間：2018年1月11日～2月9日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、および演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、講義科目72.8%（2016年度後期69.7%）、講義以外の科目21.0%であった。

2017年度秋冬学期授業改善アンケート 講義科目
対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	1	12
	行動系科目	12	535
	社会・人間系科目	13	492
	教育系科目	10	487
	G共生系科目	10	374
大学院科目		36	166
G30科目		13	102
計		95	2168

回収数 2168 / 受講登録者数 3110 = 回収率 69.7%

講義科目以外(演習、実習、研究)

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	3	5
	行動系科目	41	36
	社会・人間系科目	31	52
	教育系科目	46	21
	G 共生系科目	13	3
大学院科目	共通科目	2	8
	行動系科目	52	28
	社会・人間系科目	59	62
	教育系科目	60	88
	G 共生系科目	42	25
G30 科目		4	0
計		353	328

回収数 328 / 受講登録者数 1561 = 回収率 21.0%

- ※1 基礎科目は、行動・社会・教育・G 共生系科目に割り振られている。
 2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2017年度春夏学期より、全科目をアンケート実施対象科目とし、講義科目については従来通りマークシート方式を採用、講義以外の科目（演習、実習、研究）についてはKOAN上にて回答する方式を採用した。2017年度秋冬学期の授業改善アンケートの回収率は69.7%となり、2016年後期の69.7%と同数値であった。また、今年度より新たに実施されたKOAN上による回答率は21.0%であり、春夏学期の22.2%とほぼ同じであった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、4.06であり、学生の授業への満足度は例年通り高い（2016年度後期3.97）。学系別集計によると、とりわけ大学院生の53.4%が「非常に良かった」と回答しており、授業満足度が突出して高いことが分かる。講義科目以外の満足度は、学部平均4.40、大学院平均4.37であった。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が80.2%（2016年後期77.0%）と、昨年度よりも多くの学生が授業に参加していると答えている。問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に対して、「ほとんどなし」と答えたのは46.1%となり、2016年後期の56.4%から10%以上も改善されており、順調に改善されつつある（2015年：前期53.7%/後期64.4%、2016年：前期41.8%/後期56.4%、2017年度：前期40.2%）。学系別集計によれば、とりわけ行動学系の改善率が顕著であり、まったく予習・復習をしないと答えた割合が2016年後期の71.6%から、今年度は49.3%まで大幅に減少した。他学系では、社会人間学系がわずかに0.3%上昇しているものの、教育、G共生、大学院、G30のいずれも、3.6%から15.0%の範囲で減少しており、全体的に改善傾向にあるといえる。問4の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は3.69であり、例年とほぼ同じ数値を示している（2016年：前期3.78/後期3.66、2017年：春夏学期3.69）。

また、問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が70.5%（2016年：前期71.2%/後期65.6%）であり、学生のニーズと能力に適した授業運営が実施されているといえる。シラバスについて問5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対しては58.4%が「そう思う」と回答しており、2013年以降徐々に改善傾向にある。問6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「そう思う」の割合は60.6%（2016年後期60.0%）、問8の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は3.99（2016年後期3.89）、問9の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は3.87（2016年後期3.82）と、いずれの項目においてもわずかながらに上昇しており、適切な授業運営が実施されていると判断される。

今年度春夏学期よりKOAN上で実施した講義以外の科目について、いぜんとして回答率の低さが問題である（2017年春夏学期22.2%/秋冬学期21.0%）。ただし、春夏学期の調査結果でも述べたように、現在の回答率は2014年以前の紙媒体で実施していた時期の回収率と比べてもそれほど違いはない（2013年：前期23.4%/後期24.3%）。回答率40%を目指し、授業内でのアンケート入力の徹底、複数回にわたるアンケート回答のリマインダーメール、科目担当教員によ

る呼びかけ等を引き続き実施する必要がある。今後も回答率の向上に向けて一層の協力を願いたい。

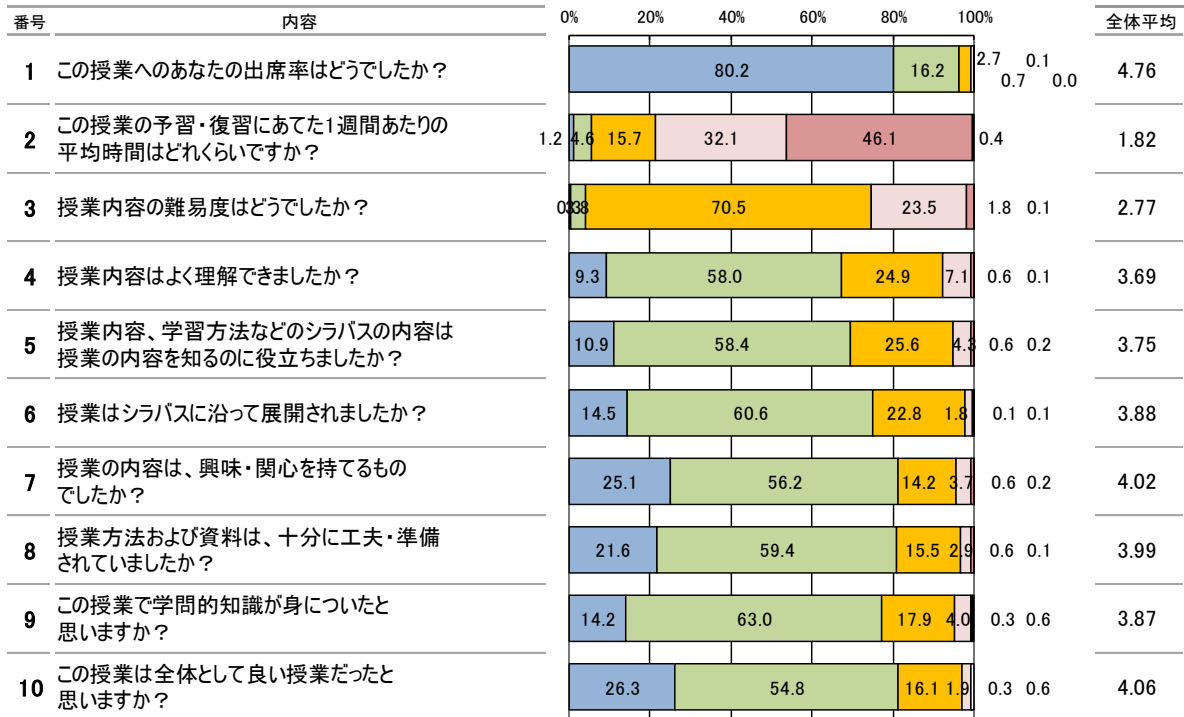
また、科目担当教員によるコメントにあるように、アンケートの自由記述に書かれている具体的な問題点や改善点の指摘が、次回からの授業改善につながっている。受講生は、アンケート回答時に、とりわけ自由記述を記述するよう努めるとともに、科目担当教員は多くの学生の具体的な意見を集め、これを次回からの授業運営に反映させることで、当該アンケートを有効に利用していただきたい。

以下より、2017年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

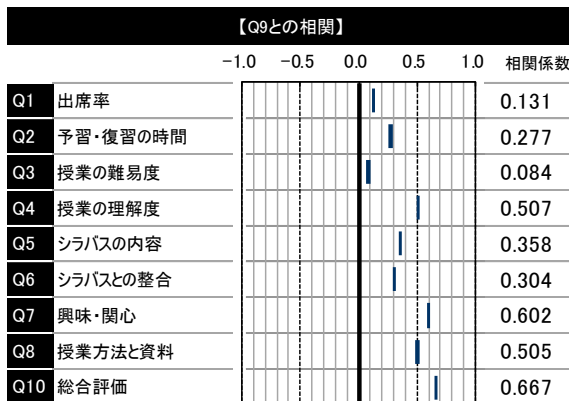
※学系別集計（p. 6）については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・G 共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

全体集計	履修者数	3110
	回答数	2168
	回答率	69.7%

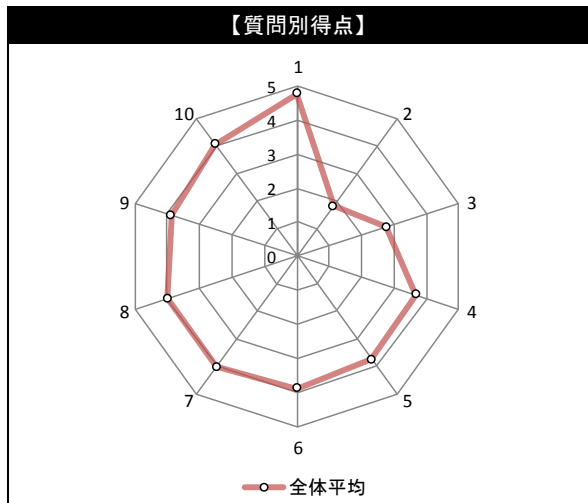
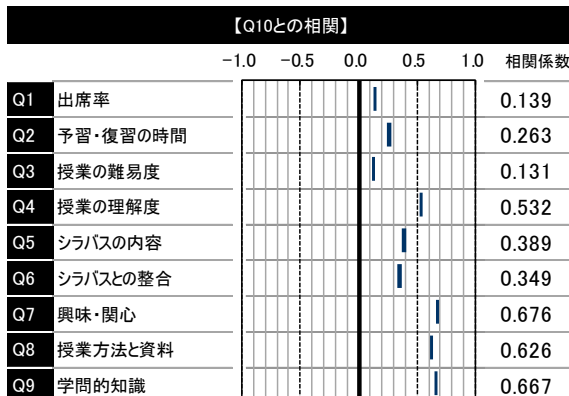


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)



講義科目以外(KOAN 実施分)

【学部】

学部	授業数	履修人数	回答者数	回答率	平均点	設問：1	設問：2	設問：3	設問：4	設問：5	設問：6	設問：7	設問：8	設問：9	設問：10
秋冬学期_学部_共通_演習・実習	3	52	5	9.6%	平均点	4.60	1.80	3.20	4.20	3.80	4.40	4.80	4.60	4.40	4.40
					合計	23	9	16	21	19	22	24	23	22	22
					回答数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
秋冬学期_学部_行動_卒業演習・研究	12	49	3	6.1%	平均点	5.00	4.67	4.00	4.33	3.67	4.00	4.00	3.67	4.67	4.00
					合計	15	14	12	13	11	12	12	11	14	12
					回答数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
秋冬学期_学部_行動_演習・実習	25	155	33	21.3%	平均点	5.00	4.00	3.06	4.09	3.88	4.09	4.45	4.27	3.97	4.36
					合計	165	132	101	135	128	135	147	141	131	144
					回答数	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
秋学期_学部_社人_講義(演習)	1	26	3	11.5%	平均点	5.00	3.33	3.67	4.00	4.33	4.33	4.67	5.00	5.00	5.00
					合計	15	10	11	12	13	13	14	15	15	15
					回答数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
秋冬学期_学部_社人_卒業演習・研究	12	38	0	0.0%	平均点										
					合計										
					回答数										
秋冬学期_学部_社人_演習・実習	15	129	49	38.0%	平均点	4.88	3.06	3.33	3.84	3.51	3.63	4.18	3.88	4.15	4.06
					合計	234	150	163	188	172	178	205	186	199	199
					回答数	48	49	49	49	49	49	49	48	48	49
秋冬学期_学部_教育_卒業演習・研究	13	58	6	10.3%	平均点	5.00	4.17	3.50	3.83	3.67	3.50	3.83	3.83	4.17	4.00
					合計	30	25	21	23	22	21	23	23	25	24
					回答数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
秋冬学期_学部_教育_演習・実習	25	158	15	9.5%	平均点	4.80	3.13	3.07	3.80	3.73	3.87	4.47	4.07	4.36	4.47
					合計	72	47	46	57	56	58	67	61	61	67
					回答数	15	15	15	15	15	15	15	15	14	15
秋冬学期_学部_G共_卒業演習・研究	5	14	0	0.0%	平均点										
					合計										
					回答数										
秋冬学期_学部_G共_演習・実習	3	63	3	4.8%	平均点	5.00	2.33	3.67	3.67	4.00	3.50	4.33	4.00	4.00	4.67
					合計	15	7	11	11	12	7	13	12	12	14
					回答数	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3
秋冬学期_学部_G30_演習・実習	4	29	0	0.0%	平均点										
					合計										
					回答数										

【大学院】

大学院	授業数	履修人数	回答者数	回答率	平均点	設問：1	設問：2	設問：3	設問：4	設問：5	設問：6	設問：7	設問：8	設問：9	設問：10
秋冬学期_大学院_共通_演習・実習	2	33	8	24.2%	平均点	4.63	3.63	3.25	3.88	4.13	3.75	3.75	4.13	4.25	4.13
					合計	37	29	26	31	33	30	30	33	34	33
					回答数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
秋冬学期_大学院_行動_演習・実習	24	63	15	23.8%	平均点	4.60	4.20	2.73	4.33	4.00	4.13	4.27	4.20	4.33	4.40
					合計	69	63	41	65	60	62	64	63	65	66
					回答数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
秋冬学期_大学院_行動_研究	21	54	13	24.1%	平均点	4.92	4.15	2.85	4.31	4.23	4.15	4.58	4.38	4.62	4.69
					合計	64	54	37	56	55	54	55	57	60	61
					回答数	13	13	13	13	13	13	12	13	13	13
秋学期_大学院_社人_講義(演習)	1	16	1	6.3%	平均点	5.00	2.00	2.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
					合計	5	2	2	4	4	4	4	4	4	4
					回答数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
秋冬学期_大学院_社人_演習・実習	22	79	17	21.5%	平均点	4.53	3.94	3.06	3.82	4.06	4.00	4.47	4.25	4.59	4.65
					合計	77	67	52	65	65	68	76	68	78	79
					回答数	17	17	17	17	16	17	17	16	17	17
秋冬学期_大学院_社人_研究	20	65	18	27.7%	平均点	4.59	3.61	3.06	3.94	4.06	4.11	4.47	4.28	4.44	4.61
					合計	78	65	55	71	73	74	76	77	80	83
					回答数	17	18	18	18	18	18	17	18	18	18
秋冬学期_大学院_教育_講義(演習)	3	44	9	20.5%	平均点	4.89	1.44	3.22	3.67	3.44	3.44	4.22	3.78	4.33	4.33
					合計	44	13	29	33	31	31	38	34	39	39
					回答数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
秋冬学期_大学院_教育_演習・実習	23	156	33	21.2%	平均点	4.97	2.76	3.21	3.48	3.52	3.58	4.34	3.73	4.12	4.15
					合計	164	91	106	115	116	118	139	123	136	137
					回答数	33	33	33	33	33	33	32	33	33	33
秋冬学期_大学院_教育_研究	22	108	20	18.5%	平均点	4.85	3.00	3.25	3.85	3.65	3.80	4.25	3.60	4.25	3.95
					合計	97	60	65	77	73	76	85	72	85	79
					回答数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
秋冬学期_大学院_G共_演習・実習	20	97	25	25.8%	平均点	4.72	3.76	3.32	4.08	4.16	4.04	4.52	4.44	4.40	4.72
					合計	118	94	83	102	104	101	113	111	110	118
					回答数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
秋冬学期_大学院_G共_研究	13	75	15	20.0%	平均点	4.80	4.53	3.20	4.27	4.33	4.07	4.53	4.43	4.53	4.73
					合計	72	68	48	64	65	61	68	62	68	71
					回答数	15	15	15	15	15	15	15	14	15	15

<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート実施科目 94 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 47 科目であり、平均値 4.06 を上回ったのは 60 科目であった。

2017 年度秋冬学期講義科目

満足度上位の科目一覧

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	共生の技法 I	32	4.75
2	社会科・公民科教育法 B	12	4.50
3	コミュニケーション社会学	60	4.50
4	行動生理学	26	4.46
5	社会保障政策論 II	13	4.38
6	教育人間学 II	35	4.37
7	健康・医療心理学 (Health and Medical Psychology)	19	4.37
8	Advanced Politics	11	4.36
9	経験社会学	30	4.33
10	教育コミュニケーション学 II	51	4.33

青野 正二	環境評価学演習, 環境評価論, 環境行動学特講 I, 人間行動学実験実習 III
<p>コメント</p> <p>⇒今年度の授業については、すべての項目において、これまでよりポジティブな方向へシフトする傾向が見られた。授業の構成や内容にはそれほど変更点はなかったが、毎年受講生からの個別の指摘（自由記述欄に記載）に着目し、少しずつ変更を加えてきた効果が現れ始めたのかもしれない。今年度の結果においても、受講生からいくつか要望などが寄せられているため、それらについて検討する必要がある。特に、授業で理解が困難だった点についてはこれまでも重点を置いてきたので、継続して取り組んでいきたい。</p>	

足立 浩平	多変量統計科学, 行動統計科学特講 I, Multivariate Data Science, 行動統計科学演習 II, 行動統計科学特定演習 II, 行動統計科学特別演習 II, 行動生態学実験実習 III, 卒業研究, 行動統計科学特定研究 II, 行動統計科学特別研究 II
<p>コメント</p> <p>⇒ Multivariate Data Science・多変量統計科学・行動統計科学特講 I について 数理系の学問は難解さを伴うため、すべてを把握するのは難しいです。そこで、「この部分はわからなくても構わない」という判断が大切で、大雑把にロジックを追うことに努めてください。</p> <p>人間行動学フィールドワーク実習 II, 人間行動学方法実習 II, 行動生態学フィールドワーク実習 II, 行動生態学方法実習 II, 人間行動学フィールドワーク特別実習 II について 多くの先生が担当する科目ですので、行動学系の幹事教授としてコメントします。行動学系には、各種の心理学分野、生物科学、さらには、統計科学の分野が含まれ、こうした分野の相互の位置づけを把握するため、科学哲学の勉強などを通して、学識を増すことも重要と考えられます。</p> <p>行動統計科学の演習・特定研究・実験実習について 引き続き、オリジナルなアイデアを考えて、シナリオ構想力を鍛え、論文が書けるように努力してください。</p>	

井村 修	臨床心理学特別演習 II, 臨床心理学特定演習 II, 臨床心理査定演習 II, 臨床教育学実験実習 III, 臨床教育学実験実習 I, 臨床心理実習 II, 認知臨床心理学特別研究 II, 障がい児（者）心理学特講 II
<p>コメント</p> <p>⇒単独の授業、オムニバスの授業、複数教員同席指導の授業と様々な形式があったが、臨床心理学分野の授業は理論と実践・技術の学習だけでなく、心理臨床的態度や感覚を磨く場でもある。予習復習時間の評価が低かったが、これは座学での学習時間を回答しているのではないかと思われる。「障がい児（者）心理学特講 II」の TF セッションも復習時間と考えてもいいのではと思う。回答者の出席率が高いことも評価されるであろう。また学問的知識の修得も比較的高い評価であった。しかし授業の進め方など検討すべき余地もあることがうかがえた。自由記述の回答がもう少し多いと対策が取りやすいのではないか。次回の改善授業アンケートでは自由記述の増加を期待する。</p>	

白井 伸之介	安全行動学, 安全行動学特講 II, 安全行動学演習 II, 安全行動学特定演習 II, 安全行動学特別演習 II, 人間行動学実験実習 III, 人間行動学実験実習 I, 卒業研究, 安全行動学特定研究 II, 安全行動学特別研究 II
<p>コメント</p> <p>⇒科目「安全行動学・安全行動学特講 II」（安全行動学履修者 54 名、回答者 42 名、安全行動学特講 II 履修者 13 名、回答者 9 名）</p> <p>昨年度同科目の設問 10（全体評価）で、初めて 4 点を切ったので少し驚いたが、本年度は、配付資料の内容を一部修正したり、リアクションペーパーの導入と次回講義でレスポンスするなど、若干の改善を試みた結果、得点が 4.12 と再度上昇してやや安心した。設問 7（授業内容は興味持てる内容か）のみ、全体平均点より下回っていたので、その点について、今後検討したい。</p>	

老松 克博	臨床心理学特講 II, 卒業研究
<p>コメント</p> <p>⇒皆さん、がんばって授業についてきてくださったと思います。ありがとうございました。アンケート結果を見ると、例年と同様、予習や復習について配慮する必要があるということでした。予習はたいせつだと思いますが、この授業では、知識に頼らずに自身の内面を見つめてどう対処するかという、臨床の現場で必要とされる力をそれぞれに見出していただくことを重視しています。ご理解をお願いします。</p>	

岡田 千あき	生涯教育学特別演習 II(A), 生涯教育学演習 II, 生涯教育学特定演習 II(A), 卒業研究, 生涯教育学特定研究 II(A), 生涯教育学特別研究 II(A)
<p>コメント</p> <p>⇒授業改善アンケートにご回答いただいた方、ありがとうございました。講義科目ではなく、受講者数も少ないため回答がしづらいのですが、参考にし、また、来年度の授業の中で皆さんの意見や希望を聞きながら改善していきたいと思っています。</p>	

岡部 美香	教育人間学特定演習 II(B), 教育人間学 II, 教育人間学特講 II, 卒業研究, 教育人間学特定研究 II(B), 教育人間学特別研究 II(B)
<p>コメント</p> <p>⇒今年度まで、大学院生と学部生が混在する形で授業をしていたので、授業のレベルを設定するのが難しかったです。来年度からは、分けて授業をするようになるので、いま一度、それぞれの授業のレベルを考えてみたいと思います。</p>	

小野田 正利 園山 大祐	教育制度学特定演習 II, 教育制度学特別演習 II, 教育制度学演習 II, 教育環境学実験実習 I, 教育環境学実験実習 III, 教育制度学特定研究 II, 教育制度学特別研究 II
<p>コメント</p> <p>⇒特定演習において予習復習の平均時間が 30 分から 1.5 時間という回答があったのは残念であり、英語の講読に必要な予習復習が充分実施されていなかったためと推測する。報告担当ではないときの予習復習が重要と思うので、次年度はもうすこし予習復習を促したい。また授業の工夫については、学生の自主的な発表の場なので、学生同士でより積極的に意見を出し合うよう促していきたい。次年度は博士後期の学生も入るので期待したい。</p> <p>⇒実験実習 I について予習はお願いしなかったが復習については、参考文献を提示したのでお正月休みや春休みに読んでもらいたい。</p>	

金澤 忠博	比較発達行動学, 比較発達心理学特講 I, 比較発達心理学演習 II, 比較発達心理学特定演習 II, 行動生態学実験実習 I, 行動生態学実験実習 III, 卒業研究, 比較発達心理学特定研究 II
<p>コメント</p> <p>⇒なによりも面白いと感じてもらえる内容を心がけているので、概ね講義内容に興味を持ってくれたことが分かりその点では満足している。声が聞き取りにくいなどの感想もあることについては、今後気をつけていきたい。留学生には理解しにくい点があることについてももう少し丁寧な説明を心がけるようにしたい。</p>	

近藤 博之	教育動態学特講, 教育と社会, 教育社会学特定演習 II, 教育社会学演習 II, 教育環境学実験実習 I, 教育環境学実験実習 III, 卒業研究, 教育社会学特定研究 II
<p>コメント</p> <p>⇒演習科目は人数が少ないこともあり、まずまずの評価が得られるのだが、講義科目は毎年、評価が低く、全体の平均を下げるのに「貢献」している。人数が多いと意見の遣り取りが限られ、どうしても一方的に話すようになってしまう。内容的な工夫はもちろん必要だが、出席者とのコミュニケーション不足も原因の 1 つと考えている。「毎回、質問を紙に書いて出させたらどうか」とのコメントをもらったので次年度に考えてみたい。</p>	

佐藤 眞一	臨床死生学・老年行動学特別演習 II, 臨床死生学・老年行動学特定演習 II, 臨床死生学・老年行動学, 臨床死生学・老年行動学特講 II(A), 臨床死生学・老年行動学演習 II, 人間行動学実験実習 III, 卒業研究, 臨床死生学・老年行動学特定研究 II, 臨床死生学・老年行動学特別研究 II
-------	---

コメント
⇒臨床死生学・老年行動学・臨床死生学・老年行動学特講 II(A)
研究分野の専門2科目のうちの1科目である。3名の教員によるオムニバス講義であったが、授業内容については事前に調整して内容が重ならないように工夫した。全般的には高評価であったが、参考文献等は紹介しているものの、相変わらず予習復習が少ない。今後は、課題を与えることも考えたい。また、難易度に関して適切が多かったが、次いで易しいという評価が難しいよりも多かったので、内容については再検討の余地があると感じている。ただし、授業で使用するスライドはすべて CLE にアップしたので、そのことが授業の難易度に影響したのかもしれない。元来、老いや高齢者に関心の薄い若者が大半を占める受講生ではあるが、超高齢社会の現代に生きている者として、本講義を通して新しい知識や情報を得ることができ、思考を深めることができたものと思う。今後も、心理学・行動学に基づく基礎的な思考法はもとより、新たな知見をわかりやすく伝えたい。

澤村 信英	国際協力学 II, 国際協力学特講 II, International Development and Collaboration II, 国際協力学特定演習 II, 国際協力学特別演習 II, 卒業研究, 国際協力学特定研究 II, 国際協力学特別研究 II
-------	--

コメント
⇒留学生を中心に、受講生が有する多様なバックグラウンドを授業の中で生かすことを試みた。授業内容をそれぞれの出身国などに関連付け、関心を喚起することに努めたつもりである。また、受講生の中である程度の交流ができるよう、一部学生に対して自身の国際経験を発表する機会を設け、それに対して質問役の学生をあらかじめ決め、議論が学生間で展開されることを期待した。しかし、学生間（留学生・G30 学生と一般日本人学生）の英語力の差は歴然としており、さらに 40 人程度のクラス規模であったため、全体として盛り上がることも少なかった。今後は、この差を前提として、逆にポジティブな方向に転換した授業づくりができないものかと考えている。

篠原 一光	応用認知心理学特別研究 II, 応用認知心理学特定演習 II, 応用認知心理学特別演習 II, 応用認知心理学, 応用認知心理学特講 I, 応用認知心理学演習 II, 人間行動学実験実習 III, 卒業研究, 応用認知心理学特定研究 II
-------	---

コメント
⇒応用認知心理学・特講 I に関して、評価は全体的に良好であり、否定的な評価はあまり見られず、よかったと考えている。ただし予習復習にあてた時間は（それらを行うように工夫したにもかかわらず）十分な結果となっていないようであり、来年度以降の講義では予習課題等に工夫が必要だと考えている。

Schwentker Wolfgang	比較思想史, 比較思想史特講, Contemporary Japanese Thought, 現代人間学演習 II, Seminar in Intellectual History, 卒業研究, 比較文明学特定研究 II
---------------------	--

コメント
⇒Comment on “Contemporary Japanese Thought”
There has been some criticism about the number of thinkers that have been introduced. Students recommended to reduce the number of thinkers and choose instead a more in depth approach concerning their contributions to political and social theories. That is a point to which I can agree. Other comments of students do not make sense. This is a lecture, and not a seminar.

Comment on “Seminar in Intellectual History”
Students were rather content with the structure and methods of the seminar.
I am not planning to make greater changes for this seminar.

高谷 幸	現代社会学特定演習 II, 現代社会学, 現代社会学特講, 理論社会学演習 II, 卒業研究, 現代社会学特定研究 II
コメント ⇒「現代社会学」「現代社会学特講」については、授業内容がやや容易だったようなので、来年度の開講にあたって参考にしたい。また予習復習の時間が短い受講生が多かったので、来年度は授業外の学習を促すようにしたい。	

辻 大介	コミュニケーション社会学特定演習 II, コミュニケーション社会学特別演習 II, 文化社会学演習 II, コミュニケーション社会学, 卒業研究
コメント ⇒例年どおりおおむね高い評価をいただきましたので、大きく改善しなければならない点はなさそうですが、次年度はもう少し課外学習をうながすような取り組みをしてみたいと思います。	

中澤 渉	卒業研究
コメント ⇒自分の担当については、卒論のみが対象なので、特にコメントはない。 大学院の演習・実習で、教育系の予習・復習にかけた時間の少なさが目立つ。理由はすぐに思い当たらないが、少し対応を考えないといけないかもしれない。	

中野 良彦	生物人類学, 生物人類学特講 II, 生物人類学演習, 行動生態学実験実習 III, 卒業研究
コメント ⇒生物人類学・生物人類学特講 II の授業に関しては、講義形式で行ったが、大半の受講生にとって専門外の内容が多く、知識の習得という点に重点が置かれ少なくなったことはある程度仕方がないと思う。また、同様の理由で、難易度を低めにし、理解度を高くすることに重点をあてたが、その点は結果に反映されていると考える。	

中山 康雄	現代人間学演習 II, 認知システム論, 科学哲学特定演習 II, 科学哲学特別演習 II, 卒業研究, 科学哲学特定研究 II, 科学哲学特別研究 II
コメント ⇒今年度の認知システム論の講義の受講数は例年よりも少なく、そのため出席率がよかったと感じる。これが私にとっての最後の講義になるので、辛抱強く講義に来てくれた学生たちに感謝したい。	

西森 年寿	教育学概論, 卒業研究
コメント ⇒教育学概論は他の教育学の先生がたとにもオムニバス形式で実施しているもので、今年2回目の授業です。昨年より評価が若干ですが向上している点は安心しています。引き続き完成度を高めたいと思いますので、学びたいことなど積極的に自由記述へのコメントをもらえると助かります。	

入戸野 宏	行動学概論, 基礎心理学演習 II, 卒業研究, 基礎心理学特定研究 II(B)
コメント ⇒世話教員を担当した「行動学概論」は、今年から新しい講師陣によるオムニバス講義であった。「全体として良い授業だったと思うか」というアンケートの問いに対して、回答者(111名, 回答率82.2%)のすべてが「普通」以上の評価であり、「あまり良くなかった」「かなり良くなかった」と回答したものは皆無だった。この授業が必修科目であることを考えれば、まずまずの評価であったといえる。来年度は、授業に使用した教材のうち、著作権の問題が生じない資料に関しては、授業支援システム(CLE)にアップロードすることを検討したい。	

野坂 祐子	教育心理学特講 ,教育心理学演習 II, 臨床教育学実験実習 III, 卒業研究
<p>コメント</p> <p>⇒関心をもって授業に臨まれた方が多いようで、よかったです。出席率も高く、グループワークにも積極的に参加されていました。講義では「予習・復習」の時間が少ないようです。授業のなかでもできるだけ課題を提示することを検討したいと思います。自己学習は与えられてやるものではなく、できれば自発的に取り組まれることを期待します。</p>	

藤川 信夫	教育人間学演習 II, 教育人間学特定演習 II(A), 臨床教育学実験実習 I, 臨床教育学実験実習 III, 卒業研究, 教育人間学特定研究 II(A), 共生の人間学特定研究 II, 共生の人間学特別研究 II
<p>コメント</p> <p>⇒大学院「共生の人間学特定研究 II」について：履修人数が少ないため評価データとして価値があるかどうかはわからないが、概ね肯定的評価であったため、引き続き授業改善に努めていきたい。</p> <p>学部「教育人間学演習 II」について：同上。</p>	

CAVALIERE Paola	Special Topic in Human Sciences IA (Introduction to Social Sciences Japanese Texts Reading)
<p>コメント</p> <p>⇒Introduction to Social Sciences Japanese Texts Reading</p> <p>2017 年度後期初めてこのクラスを教えました。社会学文献（和文）を読み解いて、英訳や英語で解釈する実践的なレッスンを行いました。外国人学生は日本語 mother tongue からまだ中級レベルの学生がいて、ある程度英語ができる日本人学生もいました。学生たちの一人一人の研究分野や日本語・英語力に合わせて指導しながら、dropout を出さない授業を心掛けました。できるだけ丁寧にゆっくりと授業を進めました。今後は更に、学生の研究分野につながる講義内容を心がけたいです。この点に関しては学生の評価も高く、私自身満足しています。</p>	

前馬 優策	インターンシップ実習 A, インターンシップ A
<p>コメント</p> <p>⇒インターンシップ A, インターンシップ実習 A ともに、1 名ずつの回答者であった。実習科目のため、授業の終わりの時期を明確に定めることが難しく、アンケート回答に誘導しきれなかったことを反省したい。たった 2 人であったが、おおむね授業については肯定的に回答してくれていた。通年の実習科目ゆえか、履修登録者の半分未満しか単位習得に至らない。単位習得に至るものは比較的熱心・主体的に授業に取り組んでおり、今回の結果もうなずけるものである。研究科・学部全体のアンケート結果については、各系の違いが面白い。「全体として良い授業だったか」という項目のポイントが高い「行動学系」と「G 共生系」は、他の項目（「学問的知識が身についたか」「十分に工夫準備されていたか」「予習復習の時間」等）もポイントが高く、学生にとっての「良い授業」を浮き彫りにしたように見える。とは言え、回答者の回答傾向や各系の授業スタイルの違いもあるので、これらの結果に重い意味を見出し過ぎることは望ましいことではないだろう。</p>	

牟田 和恵	家族社会学, 家族社会学特講, 社会環境学実験実習 III, 卒業研究, コミュニケーション社会学特定研究 II, コミュニケーション社会学特別研究 II
<p>コメント</p> <p>⇒各項目にわたって、比較的、高い授業満足度を得られた。授業時間以外の学習の機会を、適切な範囲で与えられる工夫をさらに行なっていきたい。</p>	

山田 一憲	霊長類心理学, 比較行動学特別演習 II, 比較行動学演習 II
<p>コメント</p> <p>⇒【霊長類心理学】</p> <p>Q10 の総合評価において、すべての方が「普通」以上の評価をしていたので、授業としては問題がなかったと理解しています。自由記述の項目では、唯一の記述が「スライドくばってほしい」でした。毎回スライドのレジメを準備して、その説明もしていましたが、なぜこのような回答があるのかよく分かりませんでした。</p>	

山中 浩司	文化社会学特定演習 II(A), 文化社会学特別演習 II(A), 卒業研究, 文化社会学特定研究 II(A), 文化社会学特別研究 II(A)
<p>コメント</p> <p>⇒後期については大学院の演習および特別研究・特定研究のみのアンケートであるので、数も少なく、アンケートとして意味があるかどうか不明であるが、おおむね高評価をいただきました。大学院の演習については、特に報告の方法について今後検討すべき課題が多いと考えます。</p>	

綿村 英一郎	
<p>コメント</p> <p>⇒今後も興味を引くような授業を展開していきたいと考えております。アンケートへのご回答ありがとうございました。</p>	